

第1回 栃木県「文化と知」の創造拠点整備構想策定検討委員会

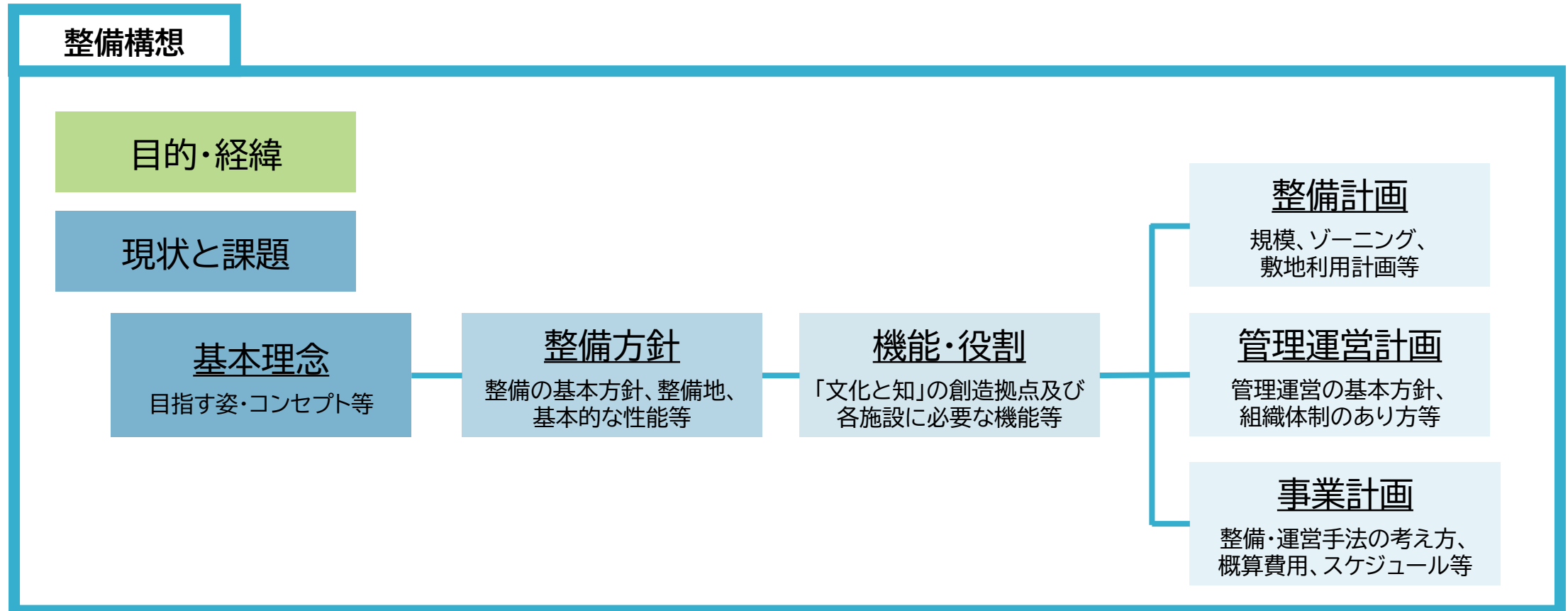
日時：令和5(2023)年8月1日(火) 14:00~16:00
場所：栃木県公館大会議室

資料 1. 栃木県「文化と知」の創造拠点整備構想策定検討委員会の設置趣旨	3 ページ
資料 2. 今後のスケジュール	4 ページ
資料 3. 各施設の現状と課題	6 ページ
資料 4. 「文化と知」の創造拠点整備に係る県の考え方	8 ページ
資料 5. 県民ワークショップについて	14 ページ
参考資料 1. 各館の現状データ	16 ページ
参考資料 2. 一体的整備を行っている先行事例	22 ページ

整備構想策定の目的

- 新たな県立美術館、図書館及び文書館について、「文化と知」の創造拠点としてふさわしい基本理念や整備方針を示し、整備計画等について整理する

整備構想の構成



事業全体の流れ



整備構想策定の流れ

年	令和5年度									令和6年度								
月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
委員会	①		②		③		④			5・6(時期未定)								
検討内容	現状と課題～機能・役割の検討						中間案	整備計画等の検討						構想案				構想策定
県民の意見聴取	ワークショップ等の実施												パブリックコメント					

今後のスケジュール

検討委員会のスケジュール

回数	日程	内容等(予定)
第1回	令和5(2023)年8月1日(火) 14:00~16:00	・各施設の現状と課題 ・「文化と知」の創造拠点整備に係る県の考え方
第2回	令和5(2023)年10月31日(火) 14:00~16:00	・基本理念、整備方針等
第3回	令和5(2023)年12月下旬頃 ※第2回検討委員会開催までに日程調整	・必要な機能と役割等
第4回	令和6(2024)年2月上旬頃 ※第3回検討委員会開催までに日程調整	・中間案のとりまとめ ・整備計画、管理運営計画、事業計画
第5回	令和6(2024)年度中 ※令和5年度末頃に日程調整	・整備計画、管理運営計画、事業計画のとりまとめ
第6回	令和6(2024)年度中 ※令和5年度末頃に日程調整	・整備構想案のとりまとめ

各施設の現状（概要）

	県立美術館	県立図書館	県立文書館
外観			
所在地	宇都宮市桜4丁目2-7	宇都宮市塙田1丁目3-23	宇都宮市塙田1丁目1-20(県庁南館内)
R5現在の建築年数	築51年	築52年	築37年
竣工年	昭和47(1972)年	昭和46(1971)年	昭和61(1986)年
構造	RC造 5階地下1階	RC造 4階地下1階	RC造 5階地下2階
規模(延床面積)	6,195㎡ 普及分館:1,712㎡	5,320㎡ (6,458㎡(書庫面積含む))	5,800㎡ (うち、文書館は1,952.2㎡)
敷地面積	12,627㎡	4,786㎡	57,452㎡(周辺敷地含む)
用途地域	第1・2種住居地域	第1種住居地域	商業地域
管理運営手法	直営(レストラン、ショップは民間運営)	直営	直営
関連する条例	栃木県立美術館条例 「美術に関する県民の知識及び教養の向上を図り、もって文化の振興に寄与する」(第1条)	栃木県立図書館設置条例 「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して一般公衆の利用に供し、その教養、調査、研究、レクリエーション等に資する」(第1条)	栃木県立文書館条例 「古文書、将来貴重な歴史資料となる県の公文書その他必要な資料の収集及び管理を行うとともに、これらの活用を図り、もって県民の教育、学術及び文化の発展に寄与する」(第1条)

各施設の現状と課題

各施設の課題（概要）

		県立美術館	県立図書館	県立文書館
ハード面	建物	<ul style="list-style-type: none"> 建物・設備の老朽化 バリアフリー対応の不足 	<ul style="list-style-type: none"> 建物・設備の老朽化 バリアフリー対応の不足 構造上管理が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 教育普及活動・展示スペースの不足 バリアフリー対応の不足
	立地	<ul style="list-style-type: none"> 奥まった場所にあり建物の視認性が低い 駐車スペースの不足 	<ul style="list-style-type: none"> 奥まった場所にあり建物の視認性が低い 駐車スペースの不足 	<ul style="list-style-type: none"> 県庁舎内にあり館として認知されにくい
	機能	<ul style="list-style-type: none"> 美術作品等の収蔵環境の悪化 収蔵スペースの不足 展示及び普及教育設備の陳腐化 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の保存環境や保存状態の悪化 閲覧書棚・収蔵スペースの不足 	<ul style="list-style-type: none"> 史料の収蔵環境の悪化 収蔵スペースの不足 史料閲覧等スペースの不足
ソフト面		<ul style="list-style-type: none"> 利用者数の低迷 デジタル化への対応不足 教育分野と連携した普及教育の不足 民間企業・団体と連携した事業の不足 サービスを提供する人的資源の不足 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数の低迷 デジタル化への対応不足 調査相談の認知度が低い 教育・学習環境等の不足 サービスを提供する人的資源の不足 新しい図書の収集が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数の低迷 デジタル化への対応不足 史料閲覧機能の認知度が低い 博学連携の更なる充実が必要 サービスを提供する人的資源の不足

県立美術館の機能

現在の基本的な機能

コア機能	展示	<ul style="list-style-type: none"> 多彩な美術作品を鑑賞する機会の提供
	普及・教育	<ul style="list-style-type: none"> 美術の力による豊かな感性や創造力の育成
	収集・保管・活用	<ul style="list-style-type: none"> 栃木県の優れた美術文化を守り、次世代へ継承
	調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> 美術文化の発信拠点としての知識や技能の蓄積
サービス機能	利用施設	<ul style="list-style-type: none"> 集い憩える場の提供



強化すべきポイント

情報発信	<ul style="list-style-type: none"> デジタルミュージアム等を活用した県内外に向けた効果的な情報発信 市町美術館等に対する助言や共同企画等による支援
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> 観光、産業、まちづくり等の他分野と連携した活動の展開 文化資源を核とした地域活性化への寄与
人づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育と連携した文化芸術に触れる機会の提供 あらゆる世代への学びの機会の提供 企画展等を通じた県ゆかりの美術作家の紹介や若手育成への寄与
文化芸術活動	<ul style="list-style-type: none"> 県民の文化芸術活動の促進 誰でも美術館を訪れ、文化芸術に触れられる環境の整備 デジタル化による館外でも作品を鑑賞できる環境の整備
利用施設	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが気軽に訪れて交流できる場の提供

「文化と知」の創造拠点整備に係る県の考え方

県立図書館の機能

現在の基本的な機能

コア 機能	資料の収集・保存	<ul style="list-style-type: none">資料価値の高い図書等を中心とした資料の収集・保存
	資料の提供	<ul style="list-style-type: none">図書や視聴覚資料等の閲覧、貸出
	調査相談	<ul style="list-style-type: none">調査相談(レファレンス)対応等による情報収集・活用の支援
	図書館の支援	<ul style="list-style-type: none">県内図書館全体のサービス向上に向けた支援



強化すべきポイント

資料の収集・保存	<ul style="list-style-type: none">蔵書(新しい図書)やデジタルコンテンツの充実地域資料の更なる充実
資料の提供	<ul style="list-style-type: none">閲覧室における選書・読書・学習の快適性・自由度の向上企画展示や講座、HP等による積極的な情報発信全ての県民が利用することのできる図書資料の整備所蔵資料等のデジタルアーカイブ化の推進デジタル技術の進展に対応したサービスの提供
調査相談	<ul style="list-style-type: none">県民の調査研究や正確な情報取得への支援体制の充実
図書館の支援	<ul style="list-style-type: none">県内図書館の人材育成の支援所蔵資料等のデジタルアーカイブ化の推進相互貸借における物流体制の強化

県立文書館の機能

現在の基本的な機能

コア機能	文書の収集・整理・保存	<ul style="list-style-type: none"> 県内の古文書及び歴史的な公文書の収集・整理及び保存
	文書の閲覧、展示	<ul style="list-style-type: none"> 収集した文書の閲覧、展示等
	史料集等の編さん・刊行	<ul style="list-style-type: none"> 史料所在目録等の編さん・刊行
	調査研究	<ul style="list-style-type: none"> 整理された収蔵史料等の調査研究
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 各種講座、学校支援事業等による普及啓発



強化すべきポイント

デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵史料のデジタルアーカイブ化の推進 電子公文書等のデジタル史料の収集・保存
公文書の適正な移管	<ul style="list-style-type: none"> 文書の作成・保存・廃棄までの一元的管理 真に保存すべき歴史的公文書の確実な移管
保存・管理	<ul style="list-style-type: none"> 適切な収蔵環境の下での保存・管理 次世代への確実な史料の継承
普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 時宜を得たテーマ等の魅力ある展示の実施 学校支援事業等の博学連携を一層促進し、史料活用を通じた普及啓発を強化

「文化と知」の創造拠点整備に係る県の考え方

「文化と知」の創造拠点の一体的整備により想定される相乗効果

施設・設備面で想定される効果

想定される効果		参考事例
機能の共有化	<ul style="list-style-type: none"> ● 類似目的の機能(受付・案内窓口、講演スペース等)や設備の共有 	太田市美術館・図書館 <ul style="list-style-type: none"> ● 建物の基本的な考え方として「内外や裏表のない建物」、「街を歩くような経験」、「環境に開かれた場所」、「みんなで北口をつくる」を実現
新たな機能の創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 3施設共同展示などによる新たな展示表現の創出 ● スペース効率の向上による新たな空間の創出 ● まとまりのある屋外空間の確保による新たな利用形態の創出 	練馬区立美術館(基本設計提案書) <ul style="list-style-type: none"> ● 可動壁による空間設定により、美術館と図書館が様々なレベルで融合

サービス面で想定される効果

想定される効果		参考事例
サービスの共通化	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務の共有化や連携、機能の相互補完等による運営の効率化 ● デジタル化の一体的な推進 ● 一体的なデジタルアーカイブによる横断検索等、アーカイブ機能の強化 	三重県総合博物館 <ul style="list-style-type: none"> ● かつての歴史的公文書を「特定歴史公文書等」として保存し、総合博物館内の資料閲覧室で公開・利用可能
新たなサービスの創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 3施設の相互連携による新たなサービスの創出 ● ワンストップレファレンスなど、分野横断的な情報の提供 ● 展示・イベント等の連携実施による施設の魅力の向上 	須賀川市民センターtette <ul style="list-style-type: none"> ● 図書館エリア以外にも図書が配架されており、図書館の閉館時間や休館日にも来館者が利用可能

「文化と知」の創造拠点の一体的整備により想定される相乗効果

利用者の活動促進に想定される効果		参考事例
	想定される効果	
相互利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 来館者の相互利用の促進 ● 各館の活動に協力するボランティア等の相互交流の促進 	須賀川市民交流センターtette <ul style="list-style-type: none"> ● 市民の経験・社会参加への意欲を活かし運営に参加してもらう個人登録制ボランティア(20歳以上向けのクラブ、10代向けのティーンズクラブ)を組織
新たな活動の創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料の相互利用による新たな「文化と知」の創造 ● 利用者等の交流促進による新たなコミュニティや活動の創出 ● 一体的なデジタル化・アーカイブ化によるWeb利用者の実来館への誘導や、Web上での新たな活動の創出 	八王子駅南口集いの拠点(概要説明書) <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な活動をけん引し、市民の「新しいチャレンジ」を応援する場所を整備

「文化と知」の創造拠点整備に関する県の考え方

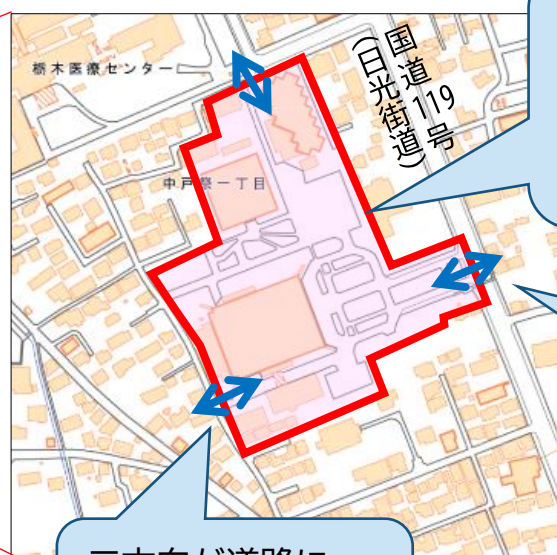
整備の方向性

内容	県立美術館、図書館及び文書館を「文化と知」の創造拠点として一体的に整備する。
場所	以下の事項等を考慮し、 県立体育館跡地を整備地 とする。 <ul style="list-style-type: none">県内各地からの様々な手段によるアクセス性に優れていること中心市街地に近接した約3.4haのまとまった県有地であること



施設を一体的に整備し、連携させることで相乗効果を高め、運営の効率化や魅力の向上等を図る

整備予定地の概要



県立体育館跡地
所在地:宇都宮市中戸祭1丁目
敷地面積:33,630㎡
用途地域:第1・2種住居地域

幹線道路からの視認性が高い

三方向が道路に面していて、アクセス性に優れる

・県内各地から様々な交通手段でアクセスが可能

現在の敷地面積

美術館	12,627㎡
図書館	4,786㎡

出典:国土地理院ウェブサイト(<https://maps.gsi.go.jp/>)
地理院地図を加工して作成

第1回県民ワークショップの実施予定

項目	一般向け	高校生・大学生向け
実施日	令和5(2023)年8月26日(土)	
実施時間	10時~12時	14時~16時
会場	県立美術館集会室	
募集人数	各回20名	
参加対象者	県内在住又は在勤の方	県内に在住又は通学している高校生・大学生
概要	「文化と知」の創造拠点について、どういった機能があれば良いか、何をしてみたいかなど、グループワークを通して考え、意見を述べていただく。	
聞き取りたい項目	<u>現在の施設の課題等</u> ・ 現在の施設の良いところや好きなところ等 ・ 現在の施設の良くないところや不足しているところ等	<u>「文化と知」の創造拠点に期待すること</u> ・ 「文化と知」の創造拠点にあると良いと思う機能等 ・ 「文化と知」の創造拠点で行ってみたいこと等
目的	・ 実際の利用者・将来の利用者としての県民の声を聴取し、県民のための施設を目指す ・ 各館の現在の活動を知ってもらうとともに、整備構想の検討が行われていることを周知することで、機運醸成を図る	

<今後の予定>

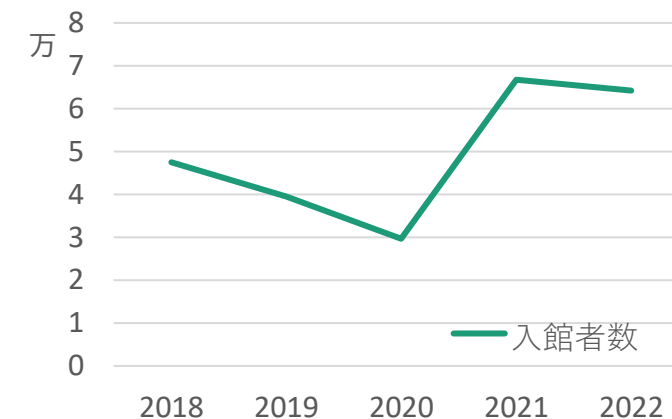
- 整備構想策定検討の進捗に合わせ、テーマや参加対象者を変えたワークショップを複数回実施し、県民の意見聴取や「文化と知」の創造拠点整備に向けた機運醸成を行っていく。
- あわせて、県民アンケートを実施し、更に広く県民の意見を聴取する。

参 考 资 料

県立美術館の現状①

利用者数の推移

	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
入館者数	47,523人	39,512人	29,684人	66,817人	64,231人
うち企画展	26,938人	23,066人	17,723人	38,955人	37,212人
うち常設展	20,585人	16,446人	11,961人	27,862人	27,019人



収蔵品の状況

	日本画	洋画	その他の 絵画	彫刻・立体	工芸	版画	写真	書	その他 (版木・二次 資料等)
収蔵数	472点	760点	788点	185点	720点	4,575点	137点	21点	1,773点
年間増加数	7点	7点	4点			171点			

R4年度末の状況

収蔵庫の状況

- ・収蔵スペース・設備が不足し、作品の入った箱を床に直置きしたり壁に立てかけたりしており、作業効率が低下。
- ・施設の老朽化により雨漏りが発生。
- ・借用した作品を環境の変化に慣らす「前室」や常時適切な温湿度管理を行うための空調システムが未整備。
- ・収蔵庫から展示室までの動線や設備に課題があるため、特に大型作品の移動が困難。

各館の現状データ

県立美術館の現状②

年間のイベント等実施状況(R4)

■ 企画展

題名のない展覧会	R4.4.16～ 6.26(62日)	7,514人
山中信夫☆回顧展	R4.7.16～ 9.4(44日)	3,615人
栃木県芸術祭 美術展	R4.9.24～ 10.6(11日)	2,676人
印象派との出会い	R4.10.22～ 12.25(56日)	17,735人
小口一郎展	R5.1.21～ 3.26(56日)	5,672人

企画展関連事業 (ギャラリー・トーク、講演会等)	18回/1,082人
-----------------------------	------------

■ 常設展

コレクション展Ⅰ 題名のない展覧会 第5章	R4.4.16～ 6.26(62日)	6,212人
コレクション展Ⅱ 特集 小堀鞆音	R4.7.16～ 10.6(55日)	4,700人
コレクション展Ⅲ みんなの《推し》コレクション!	R4.10.22～ 12.25(56日)	13,100人
コレクション展Ⅳ 時のながれ	R5.1.21～ 3.26(56日)	3,007人

■ アートリンクとちぎ (市町との連携展示)

野澤一郎が愛した美術	小山市立車屋美術館 R4.4.23～6.5	1,198人
日本近代歴史画家 小堀鞆音と羽石光志	ふみの森もてぎ歴史資料展示室 R4.10.8～12.25	1,100人

■ 普及教育プログラム

アトラウンジさくら塾 (学生ボランティアと連携した こども向けワークショップ)	7回	866人
こども向けプログラム (クイズ、ワークショップ等)	5回	179人
大人の図工室	2回	35人
アートクルーズ (高校、特別支援学校)	3校	58人
学校との連携事業 (見学、実習等)	6回	29人

運営体制

R5. 4. 1現在

館長	副館長	総務課		学芸課
		行政職	会計年度任用職員	
1人	2人	3人	2人	6人

※うち1名は学芸課長兼務

※教育広報推進員:1人
※事務補助員:1人

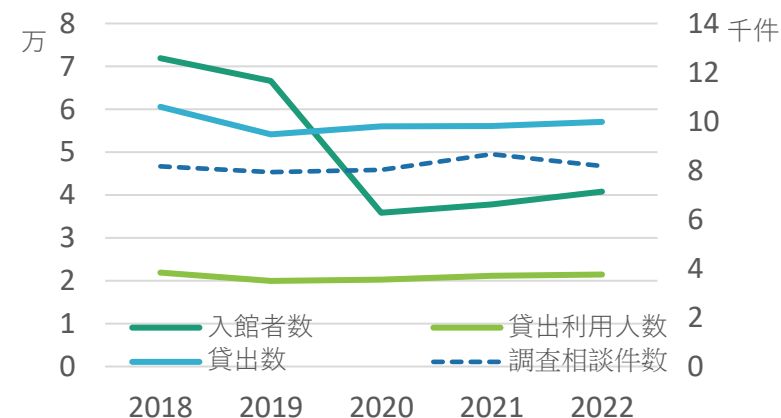
※兼務者を除く

各館の現状データ

県立図書館の現状①

利用者数の推移

	H30(2018)	R元(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
入館者	71,896人	66,609人	35,867人	37,813人	40,817人
貸出利用人数	21,903人	19,965人	20,260人	21,183人	21,463人
貸出数	60,596点	54,125点	55,998点	56,109点	57,046点
調査相談件数	8,168件	7,931件	8,030件	8,669件	8,186件



収蔵品の状況

	図書資料			逐次刊行物			視聴覚資料					電子出版物	マイクロフィルム	
	一般書	児童書	地域資料	雑誌	年鑑 白書類	新聞	CD	レコード	DVD	ビデオ テープ	音楽 テープ			楽譜
収蔵数	624,148点	58,945点	97,951点	1,033点	306点	71点	10,191点	39,523点	831点	988点	505点	1,881点	1,485点	6,995点
年間 増加数	4,587点	△794点	2,059点	△176点		1点	△6点	△7点	68点				93点	19点

R4年度末の状況

書庫の状況

開架・閉架合わせ80万冊収蔵可能の設定だが、図書資料のみで78万冊(さらに逐次刊行物も図書換算で約16万冊)所蔵しており、書庫は飽和状態。

→やむなく床置きでのいである。

施設の老朽化による度重なる雨漏り等で保存環境が悪化し、カビ被害や虫害も発生している。電動書庫も経年劣化で故障中だが、型式が古く修理不可。

各館の現状データ

県立図書館の現状②

年間のイベント等実施状況(R4)

■県民向け催事等

	回数/人数(のべ)
図書館活用講座	2回/18人 ※コロナ対応で縮小実施
文芸講演会	1回/100人 ※コロナ対応で縮小実施
県民ライブコンサート	3回/97人 ※コロナ対応で縮小実施
館内テーマ展示	32回
博物館・美術館・文書館連携展示	9回
課題解決支援事業(福祉・法律)	展示 2回 ※コロナ前は講座等開催
出張展示(各種セミナー等)	2回

■研修事業

	回数/人数(のべ)
図書館等職員基礎研修会*	全3回/91人
レファレンス基礎研修会*	全2回/42人
レファレンス応用研修会*	1回/37人
中堅職員ステップアップ研修会*	1回/19人
図書館経営研修会*	1回/73人
児童サービス研修会*	1回/42人
市町図書館出張研修会*	5回/80人
読書ボランティア指導者スキルアップ研修	全5回/107人

*印は栃木県公共図書館協会として実施

■その他

件数等
協力車等による資料搬送
協力車:年間154日(週3回) 宅配:年間51日(週1回)
協力車及び宅配等で搬送体制を整備し、 県内図書館間の相互貸借を実施
レファレンス事例の作成
67件 (累計登録件数:1,068件)
今後の活用につながる事例を選び、国会図書館 レファレンス協同DBに登録
パスファインダー※の発行
新規7点、更新7点 (累計発行点数:58点)
※図書館資料を使ったテーマ別調べ方案内

運営体制

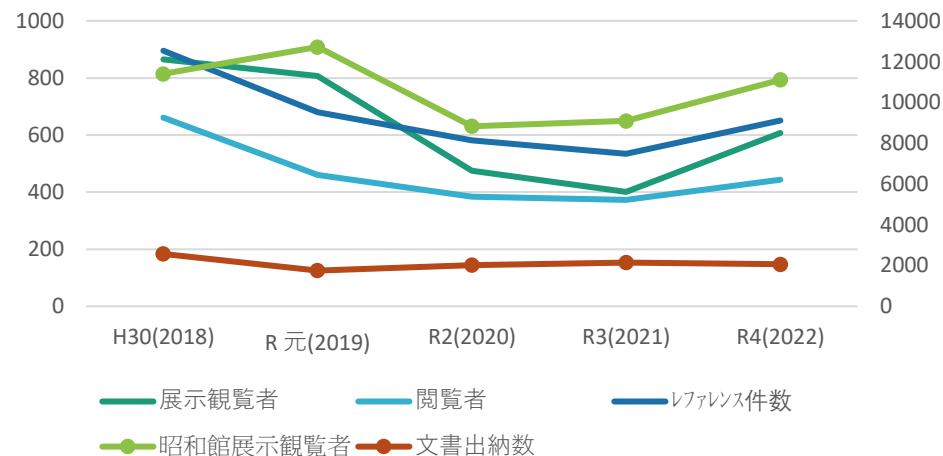
館長	副館長 (管理課長兼務)	管理課		調査相談課 / 資料課 / 企画協力課					
		行政職	事務補助員	司書職			行政職	事務補助員	
				司書	司書(代替)	図書アテンダント			
1人	1人	2人	1人	5人	3人	4人	12人	1人	

県立文書館の現状①

利用者数の推移

	H30(2018)	R元(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
展示観覧者	865人	807人	475人	401人	607人
昭和館展示観覧者	11,406人	12,722人	8,839人	9,092人	11,110人
閲覧者	661人	460人	384人	373人	444人
レファレンス件数	896件	680件	582件	534件	651件
文書出納数 (点・冊)	2,573点	1,760点	2,026点	2,152点	2,060点

利用者数の推移



収蔵品の状況

	古文書						公文書			参考図書	参考資料
	所蔵文書	寄贈文書	寄託文書		収集史料		移管文書	引継文書	管理委任文書		
			文書	写真	マイクロフィルム	史料写真帳					
所蔵数	4,415点	55,474点	333,695点	17,465点	4,193点	8,093点	47,504点	5,281点	0点	31,596点	9,014点
年間増加数		3,000点	7,000点		10点	5点	500点			500点	

R4年度末の状況

収蔵庫の状況

南館内の収蔵庫に加えて、南第2別館内の2室を活用して保存しているが、令和9(2027)年度以降、満杯となる見通し。

県立文書館の現状②

年間のイベント等実施状況(R4)

- ・常設展(毎年6月下旬頃リニューアル、文書館常設展示室)
 - ・企画展又は栃木の人物展(隔年開催、毎年10月下旬頃～、昭和館3階展示室)
 - ・「四代目県庁舎と佐藤功一」(常設展示、毎年10月下旬頃リニューアル、昭和館1階展示室)
 - ・古文書に親しむ会(5月下旬頃～7月初旬頃にかけて年間5回開催、県民一般対象)
 - ・市町文書保存担当者講習会(11月頃開催)
 - ・教材開発ワークショップ(8月に2回開催、教員対象)
 - ・博物館実習(8月5日間、学芸員免許取得希望者対象)
 - ・学校支援事業(通年、随時)
- ※その他、中学生の社会体験学習など見学・実習等随時受入れ


- ・『文書館だより』、『栃木県立文書館研究紀要』、『栃木県史料所在目録』の刊行(3月)

運営体制

館長	館長補佐(総括)	副主幹	指導主事	会計年度内職員		
				古文書管理員	文書館事務員	事務補助員
1	1	1	3	2	1	1


一体的整備を行っている先行事例の紹介（竣工年順）

	福井県立図書館・福井県文書館・福井県ふるさと文学館
外観	
複合している機能	図書館機能 + 文書館機能 + 文学館機能
所在地	福井県福井市
竣工年	平成14(2002)年
構造/(延床面積)	S/RC造 地上5階地下1階/ 図書館:15,317㎡、文書館3,119㎡
敷地面積	70,246㎡
管理運営手法	直営
管理運営主体	福井県
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館は城東地区で昭和25(1950)年開館し、宝永地区で昭和55(1980)年に移転開館したが、蔵書数の増加・敷地の狭あい性から移転新築が検討され、移転時に文書館併設が実現 ● 現在は3館連携展示等を実施 ● 令和元(2021)年には歴史文書群「松平文庫」1万点の寄託先が図書館から文書館に変更

	武蔵野市立ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス
外観	
複合している機能	図書館機能 + 生涯学習 + 青少年活動 + 市民活動
所在地	東京都武蔵野市
竣工年	平成22(2010)年
構造/(延床面積)	SRC/RC造 地上4階地下3階/9,810㎡
敷地面積	2,166㎡
管理運営手法	指定管理者制度
管理運営主体	公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館(滞在型)、生涯学習支援(さまざまな学びの欲求に応える)、市民活動支援(市民活動の「出会い」と「場」、青少年活動支援機能(居場所づくりから地域へ)を複合 ● 図書や活動を通して、人とひとが出会い、それぞれが持っている情報を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、地域社会の活性化を深められるような活動支援型の公共施設


一体的整備を行っている先行事例の紹介（竣工年順）

三重県総合博物館	
外観	
複合している機能	博物館機能 + 文書館機能
所在地	三重県津市
竣工年	平成26(2014)年
構造/(延床面積)	SRC/RC造 地上3階/11,705㎡
敷地面積	38,884 ㎡
管理運営手法	指定管理者制度(博物館)
管理運営主体	公益財団法人三重県文化振興事業団
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 博物館は津偕楽公園内に昭和28(1953)年に開館し、耐震基準の未充足から移転新設が検討され、移転時に公文書館機能が新設 ● 公文書館機能は博物館の一部門として取り入れ開館 ● 博物館資料である文書資料(史料)のうち、三重県作成の公文書は順次公文書館で管理


太田市美術館・図書館	
外観	
複合している機能	美術館機能 + 図書館機能
所在地	群馬県太田市
竣工年	平成29(2017)年
構造/(延床面積)	RC/S造 地上3階地下1階/3,153㎡
敷地面積	4,641㎡
管理運営手法	直営
管理運営主体	太田市
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 「まちに創造性をもたらす、知と感性のプラットフォーム」として開館し、多彩な美術作品と図書資料を同時に閲覧できる場所を提供 ● 利便性と運営負荷を考慮し、美術館は18時まで、図書館は20時まで(日曜18時まで)開館し、館全体で月曜(図書整理日・美術館休館日)休館 ● 展覧会に関連する図書企画コーナーの設置など連携を意識した関連性のあるイベントを実施

一体的整備を行っている先行事例の紹介（竣工年順）

須賀川市民交流センターtette	
外観	
複合している機能	博物館機能 + 図書館機能 + 生涯学習機能等
所在地	福島県須賀川市
竣工年	平成30(2018)年
構造/(延床面積)	地上5階/13,699㎡
敷地面積	7,724㎡
管理運営手法	直営
管理運営主体	須賀川市
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 東日本大震災からの「創造的復興」の中で、複合施設を中心に市街地の再生・活性化を目し整備 ● 図書館、生涯学習支援、子育て支援、ミュージアムの各機能がシームレスに融合 ● 市民が施設計画段階から参加できるようワークショップ、地元説明会、市民活動団体・地元商店街団体等へのヒアリング、パブリックコメントを実施

角川武蔵野ミュージアム	
外観	
複合している機能	美術館機能 + 博物館機能 + 図書館機能
所在地	埼玉県所沢市
竣工年	令和2(2020)年
構造/(延床面積)	地上5階地下2階/約84,000㎡
敷地面積	約40,000㎡
管理運営手法	(民間施設)
管理運営主体	公益財団法人角川文化振興財団
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● ところざわサクラタウンのランドマーク施設として、メインカルチャーからポップカルチャーまで多角的に文化を発信 ● 訪日外国人客、国内のアニメ・ゲームファンの来客、武蔵野圏の住民を開館当初の来訪者ターゲットとして設定

一体的整備を行っている先行事例の紹介（竣工年順）

八王子駅南口集いの拠点	
外観	
複合している機能	郷土資料館機能 + 図書館機能 + 公園機能
所在地	東京都八王子市
竣工年	令和8(2026)年 予定
構造/(延床面積)	—/8,120㎡
敷地面積	52,047㎡
管理運営手法	PFI(BTO)
管理運営主体	八王子ミライテラスパートナーズ株式会社(SPC)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療刑務所の跡地を活用し、学び、交流、防災の3つの機能を備えた「サードプレイス」の実現を目指す事業 ● 複合機能の魅力・強み・利点を発揮し、多様な過ごし方ができる運営を理念の1つに掲げる ● パブリックコメント、事業アイデアの公募、サウンディング調査や懇談会の開催と、市民・事業者との様々な対話を通じて計画を策定

練馬区立美術館・貫井図書館	
外観	
複合している機能	美術館機能 + 図書館機能(同一建物の予定)
所在地	東京都練馬区
竣工年	令和9(2027)年 予定
構造/(延床面積)	—/8,000㎡
敷地面積	4,090㎡
管理運営手法	未定
管理運営主体	未定
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 美術館は現在地に昭和60(1985)年に開館し、施設・設備の老朽化、常設展示・学習・交流スペースの不足から建替えを検討 ● 併設の図書館も昭和60(1985)年に開館し、企画展にあわせた図書資料展示・パスファインダー作成を実施 ● 「練馬区立美術館再整備基本構想」では美術館・図書館の機能的・空間的な融合を想定